

次世代の福祉人材確保に向けた取組

議論の方向性

- コロナ禍で減少した小中高生の学校教育における **地域の当事者や福祉の実践者との直接的な関わりを充実させるため**、各主体の取組・都事業との連携方策や効果を高めるための改善策など、次世代の福祉人材確保に向けたアプローチを活性化させる方法について意見交換

東京都

なんでもセミナー

都内の中学・高校から依頼を受け、福祉の仕事や魅力を伝える学校訪問型セミナーを開催

R5	中学生	高校生
回数	8	27
参加者数	955	788

おしごと体験

都内小中高校生を対象とした夏休み期間中の職場体験を実施
※保育は高校生のみ ※R6から介護・障害も高校生のみ

R5 (介護・障害)		R5 (保育)
小学生	中高生	高校生
2	130	1,118

ボランティアセンター

夏の体験ボランティア

東京ボランティア・市民活動センターと区市町村ボランティア・市民活動センターが主催

申込者数計：8,009人 (R5)

小学生以下	中学生	高校生	大学生以上・不明
1,695	2,058	2,259	1,997

プログラム数計：2,582個 (R5)

高齢関係	障害関係	児童関係	その他
488	452	1,121	521

各主体の取組を有機的につなげ
次世代へのアプローチを活性化

養成施設

オープンキャンパス

高校訪問・出張授業

事業者

職場体験の受入れ

地域との独自の繋がり

区市町村社協

出前講座

学校等を訪問し、福祉に関する講義を実施

実施社協数：52 (R1) 生徒向け 教員向け

	生徒向け	教員向け
小学校	548校	9校
中学校	98校	9校
高等学校	38校	1校

職場体験

福祉施設等における職場体験機会の提供

実施社協数：15 (R1) 高齢者分野 障害者分野 子供分野

	高齢者分野	障害者分野	子供分野
小学校	0人	32人	0人
中学校	31人	48人	34人
高等学校	26人	42人	0人

次世代の福祉人材確保に向けた論点（案）

①各主体と子供たちの関わり合いについて

○現状、施設や区市町村社協、ボランティアセンター、養成施設が小・中・高校生とどのような関わり合いを持っているか。

例

- | | | |
|---------------|---|---|
| ボラセン | ☞ | 夏の体験ボランティア開催（小・中・高校生がプログラムを選択し施設で体験） |
| 区市町村社協 | ☞ | ・ 出前講座の実施（主に小学校に訪問し、児童向けに講義）
・ 職場体験の実施（主に中学生が福祉施設（障害者分野が最多）の職場を体験） |
| 事業者 | ☞ | ・ 中高校生の職場体験を受け入れ
・ 施設主催のお祭り等に地域の子供たちが参加 |
| 養成施設 | ☞ | ・ オープンキャンパスへの高校生の受け入れ
・ 高校訪問や出張授業等、中高校生に業務を知ってもらう取組の実施 |

②各主体の取組を有機的に繋げるためにはどうすればよいか。

○施設等で夏の体験ボランティアからおしごと体験など、他の取組に繋げている事例はあるか。